

ネパール地震における中分解能衛星画像の特徴 Features of the medium resolution satellite image in the 2015 Nepal earthquake

作野 裕司^{1*}; 伊東 明彦²; 桑原 祐史³
SAKUNO, Yuji^{1*}; ITO, Akihiko²; KUWAHARA, Yuji³

¹ 広島大学, ² 宇宙技術開発株式会社, ³ 茨城大学

¹Hiroshima University, ²SPACE ENGINEERING DEVELOPMENT Co., Ltd, ³Ibaraki University

2015年4月25日にネパールで大地震が発生した。このような大規模災害時には、世界各国が運用する様々な分解能の衛星画像が緊急に観測される。今回の地震でも例外ではない。すでに解像度が数m以上の高分解能衛星データの解析例は、比較的よく知られている。そのため、ここでは、解像度が数10m程度の中分解能衛星データを使った解析例を紹介する。一般に中分解能衛星の解像度は高分解能衛星に劣るが、比較的観測幅が広い。そのため、広域にわたる比較的大きな災害現場の分布を少ない枚数の画像で把握できる特性を持つ。数年前までは、このような中分解能画像は有料で価格が高価だった。しかし近年 ASTER や Landsat-8 に代表されるように、安価または無料で入手できるような衛星が増えている。従って、このようなタイプの衛星データは今後ますますの活用が期待される。

キーワード: リモートセンシング, ネパール, 災害, 衛星
Keywords: remote sensing, Nepal, disaster, satellite